



一般社団法人社会情報学会 (SSI)

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301

Tel /Fax : 0422-54-4633 e-mail : office@ssi.or.jp

社会情報学会 (SSI) 会費等振替口座 (ゆうちょ銀行振替口座)

- ・加入者名 社会情報学会
- ・口座記号・番号 00150-4-608268

目次

- I 社会情報学会会長・副会長挨拶
- II 社会情報学会設立時社員構成・設立時理事構成・設立時監事構成・委員会および支部構成
- III 第1回社員総会・第1回理事会報告
- IV 委員会報告
- V 2012年社会情報学会(SSI)学会大会
- VI 事務局より

I 社会情報学会会長・副会長挨拶

会長挨拶

社会情報学会 (SSI) 会長
伊藤 守

社会情報学会 (SSI) 設立時理事による選挙で会長に選出されました。高名な研究者や優れた業績をお持ちの諸先輩が所属されるこの学会で、若輩の私とその任を務められるかどうかはなほ不安ではありますが、スムーズに学会運営が進むよう全力でその任を全うしてまいりたいと思います。会員各位のご支援とご協力、そしてこれまで以上に積極的に学会活動に参加されることを心からお願い申し上げます。

新しい学会「社会情報学会 (SSI)」が 2 月 28 日に生まれました。ここに至るまでに、日本社会情報学会 (JASI) と同一名称の日本社会情報学会 (JSIS) は、約 17 年にわたる期間、社会情報学研究の拠点としてそれぞれ学会活動を行ってきました。その間、両学会は、研究大会の共同開催や各種研究会の共同開催などをはじめとして、研究交流と組織的連携を深め、「社会情報学会 (SSI)」発足の母体となりました。新学会の発足は、両学会の会員の熱意によるものであり、新学会はその期待に応じて、これまで以上に旺盛な研究活動の場となることを確信しております。

しかしながら、新学会への期待は、会員各位からの期待にのみとどまるものではありません。社会情報学の飛躍的な発展の必要性は学問的な要請そのものである、と考えられるからです。

情報学とは、生命の誕生以来、遺伝子情報過程、認知や記憶といった生命体内部の情報過程、そして生命体の個体間のコミュニケーションとして成立した情報過程、さらに壁画や文字の発明にはじまり、さまざまな技術の開発によって成立した人類の情報過程からなる、すべての情報過程を研究する学問領域といえます。この情報学のなかにあつて、社会情報学は、他の情報現象との比較を通じて、また歴史的に異なる社会情報過程との相互比較を通じて、社会情報現象の特質を解明することが期待される、最も重要な学問のひとつです。

情報過程の歴史的層序を一步前に進めたかに見える現在の情報技術の驚異的な進歩や、それに伴う社会情報過程の複雑化、さらに複雑な情報現象が引き起こす様々な出来事の不確実性の高まりは、社会情報現象の歴史的かつ総体的な解明を志す唯一の学問分野である「社会情報学」が大きく展開し、この分野の研究がこれまで以上に前進することを強く求めています。他の学問分野からの期待も大であると言わねばならないでしょう。

固有の対象領域と方法論をもつディシプリンとしての「社会情報学」を、広大な裾野から聳え立つ高い頂をもった学問とするために、大いに努力し、研究して参りましょう。

副会長挨拶

社会情報学会 (SSI) 副会長
廣松 毅

平成 24 年 2 月 28 日に一般社団法人社会情報学会が設立されました。英文名称は The Society for Socio-Informatics (略称 SSI) です。それを受けて日本社会情報学会 (JASI) は 3 月 31 日に行われました会員総会における議決に基づき、清算管理人を残して解散し新学会に移行しました。

新学会におきましては、伊藤会長とともに 2 名の設立時社員の 1 人という立場と同時に、設立時理事 22 名による投票によって副会長の重責を仰せつかりました。伊藤会長、遠藤副会長ともども新学会へのスムーズな移行とともに速やかな立ち上げ、そして会員の方々のこれまで以上に活発な研究活動が可能になりますように尽力致す所存ですので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

日本社会情報学会（JASI）の会長としての最後の挨拶でも書きましたが、今まさに新たな学会が船出をしました。それは同時に、あまりにも不確実性が大きく先が見通せない現状にあって、「海図なき航海」の始まりでもあります。現在、新学会の役員は社会情報学の新たな地平を切り開く決意を新たにするとともに、全力を尽くす覚悟でおります。しかし、これからの航海がどのようなものなるのかは、会員の皆様方のご協力如何によります。何とぞ、新学会に対しましても、これまで以上のご協力をいただけますようお願いいたします。

その第一歩がこの9月に予定されています2012年社会情報学会(SSJ)学会大会であると考えています。大会企画委員長の立場からも会員の皆様方の積極的な参加を期待しています。

副会長挨拶

社会情報学会（SSI）副会長
遠藤 薫

2012年、長い間待たれていた社会情報学会（SSI）がいよいよ設立されました。多くの先達、会員のみなさまのご尽力の結集に、まことに心打たれるとともに、改めて身の引き締まる思いがいたします。新学会の副会長に選出され、まだまだ若く未熟ではありますが、微力を尽くしたいと存じております。どうぞよろしく願いいたします。

「社会情報学」は新しい学問です。その新しさは、三つの角度から考えることができます。第1に、「情報」という、自然科学と社会科学の枠を越えた根本概念からアプローチすることによって、世界を新たな普遍的な相のもとに捉え直す。第2に、「情報」の本質的なダイナミズム（双方向性）によって、ミクロな現象からマクロな現象まで、連続的に分析できる。第3に、東日本大震災や「アラブの春」でソーシャルメディアに大きな関心が集まったように、「情報」のソーシャルリティ（社会性）と新たなテクノロジーとの相互作用を明らかにする。

そのような性質から、「社会情報学」は、それ自体が重要なディシプリンを構成するだけでなく、すでに確立されたさまざまな学問領域のハブ、あるいはプラットフォームとしての役割を担うことができます。すなわち、社会情報学は、あらゆる境界を越えて、多様なアイデアを結ぶ触媒となり、異質な発想の衝突の中から新しい文明と生活を創発させる場となるでしょう。

この豊饒な場の発展にみなさまと共に参加できることを何よりの喜びとし、努めてまいりたいと存じます。

II 一般社団法人社会情報学会設立時社員構成・設立時理事構成・設立時監事構成・委員会および支部の構成

II-1 設立時社員構成（任期・自平成24年2月28日 至平成25年3月31日）

伊藤 守（早稲田大学）・廣松 毅（情報セキュリティ大学院大学）

II-2 設立時理事構成（任期・自平成24年2月28日 至平成25年度に開催される定時社員総会の終結の時）

理事（会長）伊藤 守（早稲田大学）

理事（副会長）遠藤 薫（学習院大学）・廣松 毅（情報セキュリティ大学院大学）

理事 和泉 潤（名古屋産業大学）・伊藤賢一（群馬大学）・太田敏澄（電気通信大学）・河又貴洋（長崎県立大学）・木村忠正（東京大学）・栗川隆宏（広島文化学園大学）・黒葛裕之（関西大学）・小郷直言（大阪大学）・五藤寿樹（日本橋学館大学）・是永 論（立教大学）・櫻井成一郎（明治学院大学）・炭谷晃男（大妻女子大学）・高田 洋（札幌学院大学）・田中秀幸（東京大学）・富山慶典（群

馬大学)・西垣 通(東京大学)・正村俊之(東北大学)・横山正人(長崎総合科学大学)・吉田 寛(静岡大学)

II-3 設立時監事構成(任期・自平成 24 年 2 月 28 日 至平成 25 年度に開催される定時社員総会の終結の時)

藤井史朗(静岡大学)・氷鮑揚四郎(筑波大学)

III-4 事務局長 今田寛典(広島文化学園大学)

事務局 和泉恵子(NPO 法人 i コミュニティ)

II-5 委員会および支部構成(任期・自平成 24 年 2 月 28 日 至平成 25 年度に開催される定時社員総会の終結の時)

◎委員長・○副委員長

(1) 総務委員会

◎廣松 毅(情報セキュリティ大学院大学)・○黒葛裕之(関西大学)・○五藤寿樹(日本橋学館大学)・佐藤佳弘(武蔵野大学)・今田寛典(広島文化学園大学)・和泉恵子(NPO 法人 i コミュニティ)

(2) 研究活動委員会

◎正村俊之(東北大学)・○田中秀幸(東京大学)・山本佳世子(電気通信大学)・新川達郎(同志社大学)・岩井淳(群馬大学)・税所哲郎(群馬大学)・榊俊吾(東京工科大学)・野田哲夫(島根大)・後藤省二(三鷹市) 嶋崎真仁(秋田県立大学) 小笠原盛浩(関西大学)・吉田寛(静岡大学)・是永論(立教大学)・高橋徹(中央大学)・柴田邦臣(大妻女子大学)・服部哲(神奈川工科大学)・音好弘(上智大学)・岡本剛和(東京大学)・橋元良明(東京大学)・関谷直也(東洋大学)

(3) 国際委員会

◎木村忠正(東京大学)・○遠藤薫(学習院大学)・岡田勇(創価大学)・金相美(名古屋大学)・寺野隆雄(東京工業大学)・横井茂樹(名古屋大学)

(4) 将来特別委員会

◎桜井成一郎(明治学院大学)・伊藤賢一(群馬大学)・吉田寛(静岡大学)・柴田邦臣(大妻女子大学)・小笠原盛浩(関西大学)・田畑暁生(神戸大学)・岡田勇(創価大学)・山本佳世子(電気通信大学)・岩井淳(群馬大学)

(5) 学会誌編集委員会

◎遠藤薫(学習院大学)・○桜井成一郎(明治学院大学)・○是永論(立教大学)・岡田安功(静岡大学)・五藤寿樹(日本橋学館大学)・橋元良明(東京大学)・今田寛典(広島文化学園大学)・小郷直言(大阪大学)・岡田勇(創価大学)・北村順生(新潟大学)・黒須俊夫(国土館大学)・伊藤賢一(群馬大学)・岩井淳(群馬大学)・山本佳世子(電気通信大学)・服部哲(神奈川工科大学)・阿部圭一(愛知工業大学)・田中秀幸(東京大学)・吉田純(京都大学)・金相美(名古屋大学)

(6) 渉外委員会

◎遠藤薫(学習院大学)・廣松毅(情報セキュリティ大学院大学)・炭谷晃男(大妻女子大学)・福田豊(電気通信大学)・正村俊之(東北大学)・田中秀幸(東京大学)・木村忠正(東京大学)・桜井成一郎(明治学院大学)・吉田寛(静岡大学)・河又貴洋(長崎県立大学)

(7) 表彰委員会

◎太田敏澄(電気通信大学)・伊藤賢一(群馬大学)・遠藤薫(学習院大学)・西垣通(東京大学)・横山正人(長崎総合科学大学)・有馬昌宏(兵庫県立大学)

(8) 社会情報学会支部構成と支部長(平成 24 年 2 月 27 日～平成 25 年 3 月 31 日(予定))

北海道支部 北海道

支部長 高田 洋 (札幌学院大学)
東北支部 青森、岩手、秋田、宮城、山形、新潟、福島
支部長 正村俊之 (東北大学)
関東支部 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
支部長 富山慶典 (群馬大学)
中部支部 長野、岐阜、富山、石川、福井、三重、静岡、愛知、山梨
支部長 和泉 潤 (名古屋産業大学)
関西支部 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
支部長 小郷直言 (大阪大学)
中国・四国支部 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
支部長 栗川隆宏 (広島文化学園大学)
九州・沖縄支部 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
支部長 河又貴洋 (長崎県立大学)

Ⅲ 第1回社員総会・第1回理事会報告

Ⅲ-1 第1回社員総会

日時：3月4日曜日 12:00~13:00、東京大学で開催。

出席者：伊藤 守・廣松 毅

議題：1 会員規則

2 会費規程・規則

3 その他

Ⅲ-2 第1回理事会

3月6日曜日 13:00~18:00、東京大学で開催。過半数の理事出席。監事陪席

議題 1 規程・規則案

2 委員会委員長、支部長選出

3 平成24年度事業計画案

4 平成24年度予算案

5 その他

Ⅳ 委員会報告

Ⅳ-1 総務委員会

2012.3.30 総務委員会委員長 廣松 毅

委員

委員会構成に前掲

委員会

3月30日 14:00~17:00、情報セキュリティ大学大学院で第1回総務委員会開催

議事：1 平成23年度決算案

2 様式 (入会申込書、後援申請書等々)

3 各委員会事業計画案

4 平成24年度予算案

5 理事会で決議された規程および規則の確認

3月6日開催の理事会において、決議された会費規程、会費規則、会員規則、評議員選挙規則、役員候補者選出規則、委員会規則、役員旅費規則について、理事会において修正された箇所の確認を行った。

6 その他

社会情報学会ロゴ募集について

IV-2 学会誌編集委員会

事業概要・報告・計画

2012.5.5 学会誌編集委員会委員長 遠藤 薫

【事業概要】

学会誌編集委員会は、委員長・遠藤薫、副委員長・桜井成一朗、副委員長・是永論をはじめとする以下の委員20名（委員名は前掲）をもって構成された。

学会誌編集委員会は、和文学会誌『社会情報学』および英文学会誌 *Journal of Socio-informatics* の編集・発行を行う。

【事業報告】

第1回学会誌編集委員会は、2012年4月7日に開催され、今後の学会誌発行の手順等について、審議、決定を行った。今後、編集委員会はオンラインで行われ、年1回学会大会時のみ、対面での委員会開催を行うことを原則とする。

【事業計画】

1. 学会誌編集委員会は、2012年4月より新学会誌「社会情報学」（英文名：*Socio-Informatics*）の論文募集を開始した。新学会誌の主な特徴は以下のとおりである。

①新学会誌「社会情報学」の発刊は当面の間、年3回とする。（6・12・3月のサイクルで3回発行する。6月を特集号、3月に大会特集号として位置づける。今年度については、6月に代えて9月に和雑誌を創刊特集号として発行し、1巻第1号とする。）

②公募論文カテゴリーは「原著論文」「研究」と「展望・ノート」の3種とする。

③「研究」は、萌芽的または試論的性格をもち、実証性、問題提起、視点、アイデア等に優れたものがあり、今後の発展性が十分期待できる研究論文、あるいは重要なテーマについて内外諸理論を広く検討し、概観する論文を意味する。

④「原著論文」と「研究」（最大14ページ）は同格の論文として位置づけられ、最低二人の査読者の採択判定に基づき採否が決定される。「原著論文」と「研究」の採択率に関しては一定の採択率を維持するように努める。

⑤「原著論文」として投稿された論文が内容によっては「研究」として採択されることもある。

⑥「展望・ノート」（最大7ページ）に関しては単独の閲読者による閲読により採否が決定される。

⑦論文の投稿はオンライン(toukou@ssi.or.jp)であるいは郵送により随時受け付ける。

⑧なお、英文誌「*Journal of Socio-Informatics*」については、従来通り、年一回の公募、年一回（9月）の発行となる。

2. 学会誌発行に要する費用（印刷費など）については、現在、複数の印刷会社からの相見積もりにより検討中である。

IV-3 渉外委員会

事業概要・報告・計画

2012.5.5 渉外委員会委員長 遠藤 薫

【事業概要】

学会誌編集委員会は、委員長・遠藤薫、副委員長・炭谷晃男、副委員長・廣松毅をはじめとする10名（委員名前出）をもって構成された。

渉外委員会は、他団体との連携、協力などに関する事業を行う。

【事業報告】

1. 横幹科学技術連合に SSI として参加の手続きを取った。
2. 社会学系コンソーシアムに SSI として参加の手続きを取った。
3. 株式会社インフォマティクス「空間情報シンポジウム」(7月6日開催)を後援し、本学会の資料展示を行うこととした。

【事業計画】

1. 社会学系コンソーシアムが 2014 年度に発行を計画している「世界へのメッセージ」に本学会の紹介を掲載する。
2. 他学会、他団体との連携を積極的にはかっていく。

IV-4 研究活動委員会

研究活動委員会・委員長 正村俊之・副委員長 田中秀幸

1. 本委員会の業務

本委員会は、社会情報学に関する研究活動の企画・実施・支援等に関する業務を行うが、その主な役割は次の二つである。

- ①研究活動委員会のなかに専門委員会等を設置し、本学会の全会員を対象にした、全国レベルの研究会を企画・運営すること。
- ②本委員会のもとに設置された大会企画委員会において、学会大会の全体プログラムの策定、自由論題報告の部会編成、学会大会における基調講演・シンポジウムの企画・実施を行うとともに、同じく本委員会のもとに設置された大会実行委員会の業務を支援すること。

2. 委員会の構成と委員の役割分担

(1)研究活動委員会の構成

委員

委員会構成に前掲

(2)専門委員会の構成と委員の役割分担

第 1 回研究活動委員会を 5 月 1 2 日に開催し、専門委員会の構成と委員の役割分担について審議し、下記のように決定した。

①定例研究会専門委員会

委員長：是永論

理論系責任者：是永論

理論系委員、高橋徹、新川達郎、岩井淳

実証系責任者：橋元良明

実証系委員：関谷直也、税所哲郎、榊俊吾

②情報政策研究会専門委員会

委員長：音好弘

委員：岡本剛和、野田哲夫、後藤省二

③若手企画専門委員会

委員長：服部哲

委員：柴田邦臣、嶋崎真仁、小笠原盛浩

④大会企画担当その他※

正村俊之、田中秀幸、山本佳世子、吉田寛

※その他の業務として、公募型研究会の開催に関する窓口業務も含まれる。

3. 今年度における各専門委員会の活動計画

①定例研究会専門委員会

年3回(7月、1月、3月)の開催を目標とする。

3回の定例研究会のなかで、第1回目は理論系、第2回目は実証系、第3回目は理論系と実証系の合同研究会を開催する。

②情報政策研究会専門委員会

今年度は2回開催する。

「通信と放送の融合」「共通番号制」「オープンソース」のなかから二つのテーマを取りあげる。

③若手企画研究会専門委員会

大会でプレカンファレンスと英語ワークショップを実施する。

IV-5 国際委員会

国際委員会委員長 木村忠正

委員

委員会構成に前掲

活動方針

国際委員会は、従来の日本社会情報学会において明示的に設置されてはならず、SSI設立とともに新規に設置された委員会です。

したがって、会員の皆さまのご意見を伺いながら、具体的な活動としてどのようなものがSSIとしてふさわしいかを含め、実践しつつ考える必要があると思っております。

まず、活動を始めるにあたり、大きくは次の6つの方向性を模索したいと考えているところです。

- 1) 海外の社会情報学、情報ネットワーク研究、メディア研究に関連した学会との連携
- 2) 海外の研究プロジェクトに対するSSIとしての参画
- 3) 他の国際学会・会議について協賛・共催を積極的に推進する
- 4) 他の国際学会・会議においてSSIを代表したかたちでの講演、ワークショップ、パネルなどの企画立案、支援
- 5) 国際会議開催、海外の研究者招聘事業などの各種公募に対する、SSIとしての企画立案応募
- 6) 研究者の国際学会発表などを支援するプログラムとの連携(学会として一定の予算を確保し、助成する事業なども行えばよいのですが、現状予算の目処が立ちにくい状況と認識しております)

3) につきましては、国際委員会メンバーにより、この秋に行われる国際会議共催の準備を進めております。

会員の皆さまには、国際委員会としての活動について、ご提案、ご助言を積極的に賜れば幸いです。

IV-6 表彰委員会

表彰委員会委員長 太田敏澄

第一回大学院学位論文表彰候補論文推薦のお願い

社会情報学会では、修士論文ないし博士論文で、社会情報に関する研究として優秀と認められる論文につき、大学院学位論文賞を贈り、表彰します。

つきましては、平成23年4月1日～平成24年3月31日までの期間におきます学位取得者の大学院学位論文につき、下記により、表彰候補論文のご推薦をお願いいたします。なお、本賞につきましては、社会情報学関連大学院ご担当の先生方にも、正会員となつていただくことを条件に、ご推薦を受け付けております。

なお、表彰区分は、以下の通りといたします。

- (1) 課程博士論文・・・大学院学位論文賞(博士論文賞)
- (2) 論文博士論文・・・大学院学位論文賞(博士論文賞)
- (3) 修士論文・・・大学院学位論文賞(修士論文賞)

また、受賞者には、学会大会において、賞状を授与いたします。

1. 受付期限 平成 24 年 6 月 20 日(水)*必着
2. 推薦形式 学会指定の推薦書、学位論文、同学位論文審査要旨を推薦先アドレスに e-mail 添付書類として送付してください。
3. 推薦先アドレス gakui@ssi.or.jp
メールの件名は「大学院学位論文賞の推薦です。」としてください。
4. 添付書類 ①学会指定の推薦書の PDF ファイル様式は、
<http://ssi.or.jp/commit/commit04.html>
よりダウンロードしてください。
②学位論文の PDF ファイル
③同学位論文審査要旨の PDF ファイル
(修士論文の場合、論文要旨でも差し支えありません。(1000 字程度)) なお、PDF
ファイルでの提出が困難な方は、事務局にご相談ください。
5. 推薦者資格 本学会正会員(入会手続中の方も、ご推薦戴くことができます。この場合、理事会での入会承認を条件として、正会員のお取り扱いを致します。)
6. 問合せ先 (一般社団法人) 社会情報学会 事務局
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17
三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301
TEL / FAX 0422-54-4633
e-mail: office@ssi.or.jp

V 2012 年社会情報学会(SSJ)学会大会

2012 年社会情報学会 (SSI) 学会大会が、9 月 14 日 (金)、15 日 (土)、16 日 (日) に群馬大学社会情報学部で開催されます。

研究発表論文(自由論題)発表申込・ワークショップの締切日が 6 月 22 日 (金) に延長されました。

○6 月 22 日 (金) 締切 研究発表論文(自由論題)発表申込と論文原稿提出は同日です。

○6 月 22 日 (金) 締切 ワークショップ

発表、参加申込方法、アクセスなど詳細については、以下の URL をご参照ください。

SSI の HP <http://www.ssi.or.jp/> または <http://www.ssi.or.jp/taikai/2012/>

現段階ではプログラム等は掲載されておりませんが、ご覧いただき、多くの方のご参加、ご発表をお待ちいたします。

2012 年社会情報学会 (SSI) 研究大会実行委員会 森谷 健 (群馬大学)

VI 事務局より

VI-1 会員の状況

6 月 7 日現在、707 名です。

VI-2 会費納入・学生会員の確認

- 1 個人・学生・減額会員の学会納入期限は 5 月末でした。未納の方は早急をお願いいたします。

- 2 学生会員の方には、学生証コピーの提出をお願いしています。

VI-3 会員の入会

2月27日に発足して以来、20名の入会申し込みがありました。

VI-4 社会情報学会のロゴ募集

この度発足した社会情報学会では学会ロゴを制作するため、そのデザインを公募することになりました。シンプルで親しみやすく、力強い作品を求めます。奮ってご応募ください。公募の詳細は、社会情報学会のHPをご覧ください。

<http://www.ssi.or.jp/>

VI-5 寄贈図書

- 東北大学大学院経済研究科 地域産業復興調査研究プロジェクト編：『東日本大震災からの地域経済復興への提言－被災地の大学として何を学び、伝え、創るのか－』, 河北新報出版センター, 2012.
- 三輪眞木子著：『情報行動』（シリーズ ネットワーク時代の図書館情報学）, 勉誠出版, 2012.

VI-6 NHK アーカイブス学術利用「トライアル研究Ⅱ」「関西トライアルⅡ」・第1期研究募集

NHKでは、大学等の研究者がNHKアーカイブスの保存コンテンツの研究利用を行う試行運用の参加者を募集しています。公募に採択された方には、「トライアル研究Ⅱ」はNHKアーカイブス（川口）で、「関西トライアルⅡ」は大阪放送局で、研究テーマにそった番組やニュースのコンテンツを充分に閲覧していただきます。

- 閲覧時期 平成24年10月～平成25年3月
- 公募対象者 大学または公的研究所に所属する教員・研究者、大学院生の方
- 募集期間 平成24年5月10日～7月10日
- 募集研究数 トライアル研究Ⅱ8件程度、関西トライアルⅡ4件程度
- 応募希望の方は、事前の「応募相談」に原則参加していただきます。

詳しくはトライアル研究のHPをご覧ください。

<http://www.nhk.or.jp/archives/academic/>

VI-7 公益財団法人日本証券奨学財団 研究調査助成の公募

- 平成24年度研究調査助成募集（6月29日〆切）
URL: http://www.jssf.or.jp/info_03_01.html
- 平成24年度研究出版助成募集（9月28日〆切）
URL: http://www.jssf.or.jp/info_03_02.html

VI-8 教員公募

立教大学社会学部メディア社会学科 教授または准教授 1名

応募期限 2012年8月21日（火）消印有効

詳細 <http://www.rikkyo.ac.jp/invitation/careers/professor/065/>

VI-9 社会情報学会（SSI）第1回理事会議事録

6月30日開催の第2回社会情報学会理事会で承認を得たのち、ニュース No.2 で報告します。